

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

パワー・バランスの歴史を学び 国際秩序の重要さを認識する

『国際秩序』

18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ

細谷雄一（法学部教授）著
中公新書／定価924円



中国の急激な台頭により、東アジアのパワー・バランスは大きく変化している。本書は、最近の新興中国の台頭による変化を、より大きな時間軸と空間軸の中に位置づける重要さを指摘する。18世紀から19世紀にかけてのフランス革命とナポレオン戦争、ウィーン体制、ビスマルク体制、当時の新興国であるアメリカと日本、秩序の挫折である二つの世界大戦、東西冷戦など、300年の国際秩序の形成をつぶさに分析し、国際関係の変遷を読み解き、現在進行中の日米中を軸にしたアジア太平洋の秩序形成へとつなげ、平和の根底である国際秩序の形成と維持の大切さを教えてくれる。

教職員執筆の最新刊

●小倉孝誠（文学部教授）著

『恋するフランス文学』慶應義塾大学出版会／3360円（2012年10月）

●近森正（名誉教授）著

『サンゴ礁と人間—ポリネシアのフィールドノート』慶應義塾大学出版会／3360円（2012年10月）

●友岡賛（商学部教授）著

『会計学原理』税務経理協会／2940円（2012年11月）

●池田真朗（法学部・法科大学院教授）著

『民法はおもしろい』講談社現代新書／798円（2012年12月）

●斎藤慶典（文学部教授）著

『中学生の君における哲学』講談社／1365円（2013年1月）

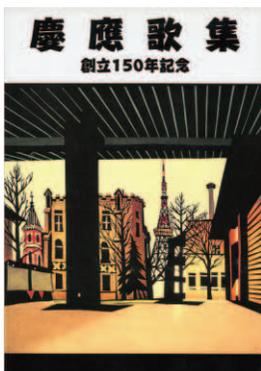
●鳥居泰彦（名誉教授）著

『回想 慶應義塾』慶應義塾大学出版会／6090円（2013年1月）

慶應義塾この一冊

『慶應歌集 創立150年記念』

慶應義塾大学応援指導部編集兼発行
音楽之友社／1000円



「義塾の歌」と聞いて多くの人が思い浮かべるのは、「慶應義塾歌」「若き血」「慶應讃歌」ではないだろうか。本書は義塾創立150年を記念し、新たに「慶應歌集」を編集した歌集である。義塾おなじみの曲をはじめ一貫教育校の歌など約40曲の歌詞と譜面が掲載されている。コラムも多く楽しめるほか、東京六大学野球リーグ戦で攻撃のチャンスの時に応援されるチャンスパターン（全11曲）の譜面なども興味深い。大学生協等で購入できる。